

第1回浜松市ユニバーサルデザイン審議会会議録

日 時：令和3年6月25日（金） 午前10時～11時45分
会 場：浜松市役所本庁8階 第3委員会室
出席委員：宮田圭介会長、松井章子副会長、飯野ホラン委員、石塚良明委員、
倉橋千弘委員、田中佐和子委員、村松千香子委員、諸井宏司委員、
横田みどり委員、吉林久委員
事務局：奥家章夫市民部長、新谷直幸UD・男女共同参画課長、河合多恵子
課長補佐、森下昌和UD推進グループ長、鈴木政彰、刑部勇人
傍聴者：なし ※報道関係者1名
会議録作成者：UD・男女共同参画課 森下
記録方法：発言者の要点記録（録音の有無：有）

《会議次第》

- 1 開 会
- 2 委員委嘱
- 3 部長あいさつ
- 4 委員自己紹介
- 5 職員紹介
- 6 オリエンテーション
- 7 会長及び副会長の選出
- 8 議 事
 - (1) 令和3年度 主要事業計画について
 - (2) 第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画（U・優プランⅡ）
第2期推進計画進捗状況について
 - (3) 第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画（骨子案）について
- 9 閉 会

《配付資料》

- ・参考資料：浜松市のユニバーサルデザイン政策の概要
- ・参考資料（説明用）：浜松市のユニバーサルデザイン
- ・資料 1：令和3年度主要事業計画
- ・資料 2：第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画（U・優プランⅡ）
第2期推進計画進捗状況【総括表】
- ・資料 3：第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画（U・優プランⅡ）
第2期推進計画進捗状況【事業別】

- ・令和2年度ユニバーサルデザイン意識調査報告書
- ・資料 4：第3次ユニバーサルデザイン計画（U・優プランⅢ）に向けて
- ・資料 5：今後の策定スケジュール（予定）

《会議の経過》

1 開会

（事務局）

令和3年度第1回浜松市ユニバーサルデザイン審議会を開催する。

当審議会は、浜松市ユニバーサルデザイン条例第18条に基づき、浜松市のユニバーサルデザインの推進に関する調査、協議及び評価をする組織として設置されているものである。

2 委員委嘱

奥家市民部長より各委員に委嘱書を交付

3 部長あいさつ

奥家市民部長挨拶

4 委員自己紹介

各委員から自己紹介

5 職員紹介

UD・男女共同参画課職員自己紹介

6 オリエンテーション

事務局から説明

7 会長及び副会長の選出

石塚委員の推薦により宮田委員が会長に選出

宮田委員の指名により松井委員が副会長に選出

宮田会長あいさつ

松井副会長あいさつ

8 議事

（事務局）

当審議会は、「浜松市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき公開会

議とする。また、会議録は事務局で作成し、「浜松市附属機関等の会議録の作成および公開に関する要綱」に基づき、発言した委員の名前を記載の上、公開することとする。

議事の進行については、浜松市ユニバーサルデザイン審議会運営要綱第4条規定により議長は会長が務めるとされているため会長にお願いしたい。

(1) 令和3年度 主要事業計画について

事務局より

(資料1) 令和3年度主要事業計画
について説明

(宮田会長)

事務局からの説明について、意見があればお願いしたい。

(吉林委員)

企業のUD出前講座は、どのようなことをやっているのか。

(事務局)

小中学校の生徒児童向けとして、今年は9社による講座がある。京丸園(株)では多様な人たちが農業に従事するユニバーサル農業、サーラエナジー(株)は災害から暮らしを守るガスのユニバーサルデザイン、杉山メディアサポート(株)は誰もが見やすく、文字や色使い方などを配慮して情報をわかりやすく伝える取組、(有)タイキ工務店は高齢者・障害者が安心安全で暮らすための家作り、TOTO(株)はUDに配慮したトイレや洗面・風呂の水回り設備、橋本エンジニアリング(株)では東京パラリンピックで使用される車椅子テニス用の超軽量車椅子の開発、(株)浜松新電力はエネルギーにおけるUD、ヤマハ(株)は「音と音楽」をめぐるユニバーサルデザイン、レストラン食楽工房は誰もが気軽に楽しめる食事やレストランの工夫、といった企業の取組を紹介したり体験したりする講座を実施している。

(吉林委員)

その企業にマッチングした内容だと思う。学校教育で約20年、UDに取り組んできており随分普及した。しかし、社会人になると、UDから離れてしまっているように感じる。取組だけでなく、一般論をもっと浸透させていくとよい。

(田中委員)

小中学校の教科書に大幅な改訂があり、家庭科、社会総合にユニバーサルデザインが必ず盛り込まれている。美術の授業でも実際にピクトグラムを書いたりする。自分の年代よりも今の子供たちはとても理解していると思う。教科書で学ぶ以外に、出前講座などの企業の授業を受けることはとても貴重な学習支援となる。キャリア教育の一環として企業が関わることは有難い。浜松には大きな企業やベンチャー企業があり、多くの企業に参加してほしい。市民や保護者が共同参画するコミュニティスクールにユニバーサルデザインを取り込むと もっと広がると思う。

(横田委員)

市職員が行うUD出前講座は、専門的な説明ができるか。また、企業のUD出前講座の講師は公募しているか。

(事務局)

UD出前講座に関しては、各区にある区振興課の職員が担当している。基本的な資料やパワーポイントを準備し、一定の学習を行った上で講師を務めている。企業のUD出前講座では、当課から企業に声掛けして講師をお願いしており、公募はしていない。

(宮田会長)

本件について承認する。

(2) 第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画 (U・優プランⅡ)

第2期推進計画進捗状況について

事務局より

(資料2) 第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画 (U・優プランⅡ)
第2期推進計画進捗状況【総括表】

(資料3) 第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画 (U・優プランⅡ)
第2期推進計画進捗状況【事業別】

について説明

(宮田会長)

事務局からの説明について、意見・質問があればお願いしたい。

(諸井委員)

コロナの影響で参加が少ないとか、開催できないということであるが、その

中にも 32 番の実績が増加しているが、その理由を伺いたい。

(事務局)

空き店舗を活用した補助事業であるが、従前は商店会に加入していることが要件であったが、加入していなくても補助対象者となり、空き店舗活用事業 8 件、商店街等課題解決事業 1 件の合計 9 件となり増加した。

(村松委員)

事業評価全般として、出控えみたいなものがあり評価が下がったものでも、内容的に優れていたりする。また、講座参加者数が指標である場合には、参加者が少なくても次のステップにつながっていれば、事業として評価できると思う。総括欄にその理由を記載するとよい。

(事務局)

今回はコロナの影響を受けたが、○や×だけでは事情がよく分からないので、もう少し分かりやすい評価の仕方ができたらよかったと思う。第 3 次計画では、UDの中身がどれだけ進捗したかというような評価の仕方を工夫したい。

(倉橋委員)

講座の実質的な評価を考えてほしい。学校がどの程度UD教育を実施しているかを評価してほしい。

「公共建築物等のUD化推進」における目標に対する実績はどのように点数化しているのか。

(事務局)

41 番のユニバーサルデザイン度は、各施設の各評価項目を 100 点満点で点数評価している。例えば、最近建設されたサーラ音楽ホールのUD度は 95 点である。誰もが使える施設と、ある程度特定した人しか使わない施設とでは大きくUD度は変わってしまう。新築・改築したすべての公共建築物の平均が今回のUD度となる。

(吉林委員)

「女性活躍支援事業」は他の事業と比べると評価が低く、もう少し工夫の余地があるとよい。

(事務局)

もの足りない評価となっており、もう少し見せ方を考えたい。

(石塚委員)

第2期推進計画は定量的なものを基本としていると思うが、定性的なものも含めて総括すればよいのではないかと思う。これだけ社会情勢が変われば、例えば、感染症対策はUD事業として位置付けられるのではないか。

(宮田会長)

評価項目は決められていると思うが、それにプラスして加えた方が、市民に適正な評価を聞くことができると思う。

(事務局)

令和3年度の評価ではコメント欄を設けるよう考えたい。

(飯野委員)

外国人学習支援センター事業の内容が分かりにくい。

(事務局)

外国人学習支援センターが実施している事業や講座に対する参加者アンケートで、4段階中の「とても満足」「満足」の合計が94%であった。

(飯野委員)

若い外国人実習生に対して日本語をサポートすれば、浜松に残って浜松を支えてくれると思う。外国人をサポートすれば、医療やサービスなど人手不足となっているところを補うことができると思う。また、母親に対する支援はその子供への教育に影響を与える。

(宮田会長)

本件について承認する。

(3) 第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画（骨子案）について

事務局より

令和2年度ユニバーサルデザイン意識調査報告書

(資料4) 第3次ユニバーサルデザイン計画（U・優プランⅢ）策定に向けて

(資料5) 今後の策定スケジュール（予定）

について説明

(宮田会長)

事務局からの説明に関して、質問や意見はあるか。

(諸井委員)

デジタル・スマートシティ構想の中でのユニバーサルデザインを具体的に示した方がよい。

(松井委員)

UDやユニバーサルデザインという言葉は、特別な人のためのという印象があり、「デザイン・フォー・オール」という言葉を入れた方が市民に浸透しやすいと思う。また、5年でも社会情勢がこれだけ変わったが、計画期間は10年でよいか。

(事務局)

計画期間は10年とするが、1期・2期を5年ずつで予定している。

(吉林委員)

UDの認知度は70%台で停滞しているのがとても気になり、市民に浸透するような施策をお願いしたい。

(宮田会長)

最終的にはどんな人でも自立して生活できるような環境が生み出せるかが目標になるのではないか。不便を感じていて、自立が大変であることが根本にあり、そこを解消する一つの手段がユニバーサルデザイン計画の体系図に現れてくるのではないかと思う。

(松井委員)

支援する人がたくさんいて、初めて自立となる。この計画にあるように人がとても大事になると思う。

(宮田会長)

本件について、承認する。

9 閉会